

## 第6回高砂市文化振興審議会議事録

出席者 田端会長、三井委員、岩見委員、渡邊委員、唐津委員、高橋委員、前田委員、  
松本委員、森本委員

欠席者 北野副会長

事務局 (健康文化部) 橋本部長、猪子室長、東野課長、福原主幹、前川係長  
(教育推進室) 泉田課長 (学校教育室) 中橋参事

### 1. 開会

【司会】 定刻になりましたので、ただ今より第6回高砂市文化振興審議会を開催いたします。

開催に先立ちまして、当審議会の公開についてですが、「高砂市文化振興審議会の運営に関する規程」に基づき、公開とさせていただいておりますが、本日傍聴希望者はおられません。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

※ 配布資料の確認

### 2. あいさつ

【司会】 では、開催にあたりまして、健康文化部長よりご挨拶申し上げます。

(健康文化部長あいさつ)

【司会】 引き続き、会長よりご挨拶お願いいたします。

(会長あいさつ)

【司会】 本日の会議は、出席9名、欠席1名により、審議会規則第5条第2項の規定により、過半数が出席されているため会議が成立していることを報告いたします。

では、今後の議事進行は、会長にお願いいたします。

### 3. 議題

#### 高砂市文化振興基本方針（素案）について

【議長】 今日、素案をまとめあげていきたいと思います。これまで委員の皆様からは、修正意見をたまり、事務局のほうからそれに対してこういう考え方をしているという説明があったと思います。あるいは、今日そのあたりのところも盛り込まれているかと思っています。修正点を中心に事務局のほうからまず素案について説明をたまりたいと思います。

【事務局】 それではご説明いたします。資料は素案となっておりますが、最終段階となっておりますので、これを答申案として読み替えていただければと思います。内容については、前回の審議会の内容を反映したものを委員の皆様へ7月に送付させていただきました。再度ご意見を伺ったところ、3人の委員から意見をいただきました。それが配付しております「文化振興基本方針に関する意見」という3枚つづりになっているものです。また教育委員会から意見をいただきまして、それが「教育委員会の意見と事務局の考え方」というものです。これらを受けまして文化スポーツ課で修正し、今回お渡ししています基本方針の網掛け部分を変更している箇所です。教育委員会へは、7月25日に文化振興基本方針策定に関する経過報告をし、その後教育委員会から意見をいただきました。その意見に対して事務局の考え方をまとめたものが先ほど少し説明した部分です。本日お渡ししましたので、簡単に説明します。この中で上から2つ目ですが、11ページの「ふるさとを誇りに思い、愛する心を育て」に、「誇り」を入れたらどうですかという提案をいただきまして、それについては入れたものとなっております。15ページの下部分の「文化財の活用を」の部分で、「既存の文化財の利活用」という言葉に変えており、この2か所は教育委員会から提出していただいた意見に修正しています。あとの部分については、施設名などが入るようなこともあり、基本方針には入れていないので今回は修正しませんということで回答しています。以上の点で、修正した部分が基本方針の網掛けの部分であり、本日は、網掛け部分を中心に議論していただければと思います。

【議長】 何度もやり取りをしており、どこが修正になっているのか分かりにくい点もあるかと思いますが、随時事務局に質問していただければと思います。最終回ということで、最初から順次見ていこうと思います。1ページの初めについては修正はない、次のページの策定に至る経緯は修正してはおりませんが、よろしいでしょうか？第2章の基本理念についても、何度もやり取りをし、ほぼ落ち着いたかなと思います。条例を基に説明したものとなっております。前々回修正しまして、それ以来修正意見はないので、これでよろしいでしょうか？なけ

れば第2章はこれで進めていきます。第3章ですが、何箇所か修正点があります。まず最初が現状のところでした、これはかなり細かく書いています。細かすぎるような気もしますが。例えば、団体数人数まで書いてあり、ここまで細かいものがあるかなとは思いますが。いくつか修正点がありますが何かこれについて意見はありますか？年間行事として書かれていますが、こういう書き方でよろしいですか？書かれていないと何もやっていないかと思ってしまう場合もあると思いますが。これは誰の意見で修正がありましたか？

【事務局】 委員の方から意見をいただきまして、この文化まつりが何々あるというよりも、もっと短いほうが読みやすいのではないかと考えていただいています。

【議長】 これは少し短くするというのでよろしいでしょうか？取り巻く課題については、順番を変えています。それから8ページのところですが、修正をしております。これまでもやってきていて、これからは何が必要かを端的に述べているわけですが、何かご意見はございますか？

【委員】 「多様な」ということも書いてあり、9ページには「多彩な」という言葉があり、文化に関しては「多彩」というほうがよいとは思いますが。

【議長】 文化を説明するには、「多彩」のほうがよいのではないかと考えていますね。

【委員】 9ページのどこに「多彩」と書いてあるのですか？

【委員】 9ページの基本目標2の網掛けしているところではなく、その上です。「子どもたちが多彩な優れた芸術や」という使い方をしているので、そのほうがいいかと思います。

【議長】 9ページの基本目標1の下から3行目ですね。文化活動を修飾する言葉としては「多彩」で、舞台に関しては「多様」でいいのですか？

【委員】 舞台に関しては環境なので、「多様」でいいと思います。

【議長】 課題4の「多様な文化交流」はどうですか？

【委員】 おかしくはないので、このままでいいと思います。

【議長】 文化活動そのものをいうときは「多彩な」にして、交流事業では「多様な」でいいと思います。8ページの3行目にある「これまで高砂市は多様で」を「多彩で」に変えさせていただきます。この8ページの上の修正箇所は特にご意見はいただいていたのでしょうか？

【事務局】 これについても委員の方からの意見です。今までも色々なことをやったから、それを踏まえて今後どうしていくのだということです。

【議長】 8ページは先ほどの箇所を修正するというので、他はよろしいですね。それでは第4章の基本目標に参ります。基本目標については、順序の並べ替えということで、少し並べ替えをしています。もう1つは、「アイデンティティ」や「ブランド」というカタカナ言葉をやめて、日本語に直しています。例えば「アイデンティティ」のところは、「高砂市を特徴づける」にし、4行目の「ブランド」は「国民の多くに知られ、愛される」というふうにしています。文化的資産というだけでなく、ブランドという意味を考えるとブランドというのは知られていて、本来「信頼」や「愛される」という意味があるので、ここでは「愛される」ということにしています。「アイデンティティ」は、個人を特徴づけるというもので、「高砂市を特徴づける」ということで変えています。確かにカタカナ言葉はよくない、日本語で説明できないものはあまり書くべきではないという議論はよくいわれています。ブランドは日本語化をしている部分がありますけど、「アイデンティティ」は分かりにくいので変えています。あと文章を整理しています。10ページですが、市民ということを強調したほうがよいということですね。文化活動団体を支援するのではなく、究極的には市民のためにというところを明確にしたほうがよい。それは何なのかというと市民の生活にとっては、文化水準が上がるという表現はあまりよくないので、「生活に潤いがもたらされる」という表現にしています。

【委員】 その下の図の矢印ですが、どうも汚く見えるので一工夫欲しい。矢印が後のほうに2本あって、字がかぶっているからそう見えるのか。

【委員】 文字を下に移すなどしてはどうか。

【委員】 きれいに見えるようにして欲しい。

【議長】 図はこれでよろしいですか。

【委員】 はい。

【議長】 では11ページの第5章にいきます。委員からこれまでにやってきたことを書いて欲しいというところで、書かれていると思います。「遺産」という言葉を前は「資産」にして欲しいということでしたが、「遺産」のままよかったですか？「遺産」と「資産」の違いはどうですかね。「遺産」となると遺されたものでとらえているイメージがありますね。

【委員】 死んだ人が残すのが「遺産」で、財産としては「資産」ですよ。

【議長】 文化遺産という言葉もあるので、文化遺産の活用ということはないわけでもない。

【委員】 「資産」と「遺産」は取扱いが根本的に違う。「遺産」は継承してきているもので、「資産」はそこにずっと置いておくものという意味なので、「遺産」ということでこのままのほうがよい。

【議長】 「資産」は活用されているから、手つかずのものではない。全く同じものではないが、意図からするとどうなのか、意図からすると「遺産」のほうがいいのではないか。

【委員】 9ページは「文化的資産」になっていますが、その兼ね合いはどうなのでしょうかね。

【議長】 9ページは元々「文化的遺産」でしたので、私が「資産」に変えてもらいました。変えたとしたら同じように変えていかなければいけないですしね。

【委員】 「遺産」といえば世界遺産ということでしょうか、何百年も前のように受けるが、そうではなく近々培われてきた、そういうものを含めた資産。

【委員】 引き続いて使っているということが遺産。

【委員】 私は人材を含めて「資産」のほうがよいと思う。

【議長】 高砂の文化的なこれから活用したいのは「資産」と言いましたが、過去から引き続いてるのは「遺産」だということですね。

【委員】 引き継ぐのは身近なところだと思いますので、「資産」というほうがよいと思います。

【議長】 そうさせていただきます。あと何かご質問とかどうでしょうか？

【委員】 10ページの図の「目指す姿」の「文化を大切にし、」の前に「“」が使われていて、表紙も同じ言葉になっているが、表紙は「～」で始まっているが何か意図がありますか、どちらかに合わせたほうがよいのではないかと？

【議長】 特に意図もないので、はずしてもよいと思う。もう少し字が大きくてもいいかもしれませんね。よろしいでしょうか。では次に第5章の最初ですが、文字をわかりやすく、整理したのですね。

【事務局】 その下のところが「ふるさとを愛し誇りに思う」というのが教育委員会の意見でしたので、それを入れるために文章を変えました。

【議長】 教育委員会の意見を反映しているということですが、教育委員会は「誇り」という言葉を入れて欲しいということですね。

【事務局】 そうです。

【委員】 学校教育は直接文化がどうということになしに、子ども達が自分を誇りに思えるとか、自分以外のものを大事にできるという、そういう気持ちを持つためには自分自身がまず自尊心を持たなければいけないと思います。

【議長】 「ふるさとを愛し誇りに思う心」というのはよろしいですか。教育委員会の表現を少し変えているのは、文章を合わせるためですか？

【事務局】 はい。

【議長】 特にご異存がなければ教育委員会の意見を反映するという事でよろしいですかね。次の12ページの図のところですが、委員からのご意見が、市民と文化振興審議会と市の関係を図にしたらどうかということをおっしゃっていました。確かに文化振興審議会にも市の公募委員が来られているから、市民が参画しているということですが、今回は文化振興の担い手ということに特化していて、文化振興審議会に市民が加わるのは、文化振興ではなく、あくまでもバックアップとか政策のほうのかかわりなので、そこは外して、あくまでも文化振興に市民がどう関わっていくのかを書いている。もともと参加ということでは弱いので、参画ということに変えています。

【委員】 ここに書いている図は、市民と市が離れているから、大きく囲っているほ

うが良いのではないのでしょうか。

【議長】 私がこだわっているのはなぜかという、先ほど言った運営の問題を切り離すのが1つと、市が文化政策で市民と直接かかわることがそれほどあるのかということです。つまり、政策でも何でも基本的に文化団体や学校を通しての活動が多いような気がして、意見書をいただいている中にある「職業人と語ろう」でも学校というファクターを通してあるので、直接結ぶというものが具体的にすぐには思いつかなかったので、ご意見をいただいていたのですが、そこを変えてくださいと私から言いました。市民と市が文化振興に直接かかわるのは、市民のための審議会を作るとするのは、公募委員もあるので、それはいいのですが、それ以外で何かありますか？

【委員】 5の市の「③市民、団体と協働して、」というところで、ここで市民と出てきていますよね。文化連盟や学校を通してですが、やはり市民が市に働きかけて、市民それぞれの声を聞いてくれる場所はどこかとなると、そこらへんがやはり遠いかなと思います。

【委員】 私も12ページ5の「③市民、団体と協働して、効果的な推進に努める。」とある文章を図に表しているイメージ図としては、繋いだほうが良いのではないかと思いました。何故なら前にも書きましたが、例えば You Tube など、高砂の文化を広めていく個人もいると思います。これからは個人で情報発信をしていく手段はいくらでも出てきて、そういう個人で発信するとき、個人でやっているが、それを市として、市の文化的なイメージを高めることになるので、例えば夢のシロなどで助成金を出す等の手段で、個人の情報発信を応援していく、という形を今はないとしても作っていけば良いのではないかなと思います。

【委員】 今回の「輝け TAKASAGO」にしましても、文化連盟に所属はしているが、文化連盟から市に話をあげたことではなく、個人的な動きという感覚で、市にお話をさせていただきました。市民がどこに話を持っていったらいいのか。

【議長】 団体を通してではなくというケースがあるということですか？

【委員】 団体という感覚ですね。その感じ方が違うということですね。学校は学校という世界があるでしょうし。

【委員】 今までの形態として、いろんな部署で活動していますよね。役所の中では教育委員会の生涯学習に自分たちが個人的な活動をしていても、それを市のほ

うでバックアップしてくださいという機会がなく、現実に繋がりがなかった。例えば文化連盟などどこかに所属していれば、その中で繋がっている形でしかない。そういう意味では、市民と文化連盟は、直接こんなことを協力してくれないかという受入れの窓口がない。

【委員】 市が遠く感じられてしまう。

【議長】 図が団体に参画することを前提のイメージになっていますから、さきほどの5番の③との矛盾があるのではないかと思われる。ほかに何かありますか？逆の意味で、例えば直接結んだときに、市が文化活動に市民を強制するという印象は受けないでしょうか？

【委員】 そういうようなことを出すのであれば、市が何かの時にいろんな団体があるから協力してくれないかという言葉が出てきたらよいが、今までは一切ない。市のほうでどこかで窓口を見つけて、そういう団体には催しをするから、そういうことで無償で場所を提供するからやってくれないかとか、市のほうで協力してくれませんかという足がかりでもあるが、やはり受入れ口は欲しい。

【委員】 強制というのは全く感じなくて、逆にして欲しいのだけどというような待っている市民、待つのではなく文化連盟に所属したり、直接市の文化スポーツ課に行って聞いてみるとか、こちらが提案するのであって、どう動いていいのか分からないという声があって、もっと市民のほうは市と近くなりたいという気持ちはあるのではないかと思う。市のほうは受け入れる態勢があるわけですし。

【議長】 事務局に聞きたいのですが、先ほど委員がおっしゃったように、もしこれを変えた場合、受入れという話が出てきて、夢のシロに個人が出せるのであれば、そういう個人の活動を例えば市がバックアップするようなケースが全くないわけではないので、そのあたりご意見はありますか？受入れ窓口とか。

【事務局】 個人の方で今考えているのは、文化賞をとられた方のシンポジウムをやるとか、個人の芸術家たちに地元でやっていただくということを市でバックアップし、高砂市で活動していただくというようなことが出てくればいいかなというのはあるので、先ほど委員が言われたように直で関わる部分が出てくるのではないかと思います。

【議長】 可能性はあるということですね。矢印はどういう方向で考えられていますか？



【委員】 矢印は市民と団体等の外枠で大きく囲って、参画、協働、支援を外に四角でも丸でも囲う。企業、学校、団体、市民に対して参画、協働、支援をしていくという形ですね。太線を1本入れるぐらいで良いのではないかと思います。

【議長】 直接かかわるといふ意見でもありますし、市民がもっと市の文化振興にかかわって欲しいといふのを示したほうがいいといふ意見ですね。

【委員】 市の四角と団体、市民をたした大きい四角のこの2つをあわせるという形で、この作業をやると今のイメージ図になると思っています。

【議長】 そういう意見ということであれば、そういう形にさせていただきます。線を結ぶというよりも全体を市が支えるということですね。これでよければそういう形に修正させていただきます。ありがとうございます。12ページのところはあとはよろしいですか？

【委員】 企業は直接市にかかわりはないのですか？企業は必ず団体のところに行き来しています。学校も団体と行き来していますし。

【議長】 最初のイメージ図には企業もあったのですよ。

【委員】 団体等を四角に括っていますのでそれぞれが関係する図になっていると思います。

【委員】 四角にするのだが、矢印から見て言うとその中で市に行くのだから、企業も団体を通しておりるのかなと思ひまして。

【議長】 元々はあったのですが、それをまとめて市が協働するといふスッキリさせた図にしたのです。企業と市、団体と市ということがあり、もっと広く市民を含めて参画と協働を進めていこうといふことです。よろしいですか。

【委員】 意味は分かりますが、前の図のほうが分かりやすいなと思ひました。

【議長】 図の線をもう少し太くするなどして分かりやすくします。

【委員】 市と市民が離れすぎている気がします。

【議長】 元々は市民が一番上です。行政は支えるというのが元々の設計であって、

しかも市民を厚くして、市は薄めにするような市民が中心の参画になり、市が支えるというイメージが元々ありました。そのため少し離れて見える。

【委員】 真ん中に市の部分を持ってくる、真ん中に企業や団体があるので、市民から見るとそこを通らないと市にたどりつけないのかなという距離感を感じる。市民が太枠で大きくあって、中に市があって、下から上の矢印で企業や団体がある。

【議長】 基本的に市の役割は調整役であって、主役は市民であり、こういった活動かなということの上に入れているのですがね。市へ行くにあたり、企業を通して申請してくださいみたいな申請業務になると、こういう図であれば誤解をうみますよね。委員のアイデアにさせていただいて、団体との矢印の関係とかもう少し分かるように、先ほど気にされていたのは、団体を通さないと市とかかわりができないと見えるので、そのあたりは少し考えさせていただくということでもよろしいですか。イメージ図はそうならないようにします。

【委員】 確認したいのですが、個人は認めるのですか？

【議長】 今の段階ではあまりないので、今後将来的にあるかもしれないということ、個人が例えば相談に行ったときに、どこに相談に行けばいいのかなど窓口がないので、そういうときに相談にのってくれるようなイメージだと思う。

【委員】 個人の挿入を認めるのであれば、真ん中の四角に個人を入れて、連携、協働をあくまでも市民が参画するわけですが、その参画の仕方としては、個人的な形もあれば、企業としてもあるし、学校としてもあるし、団体としてもあるということで、分かりやすいですよ。

【議長】 なぜ入れていないかという、個人というのが上に入っていないのですよ。市民、団体、学校となっていて、これの位置づけなのですよ。おっしゃりたいことは分かるのですけど。

【委員】 これからの時代はインターネットなど個人が多いですよ、かかわり方として。

【議長】 先ほど委員がおっしゃっていたように全部含めてかかわるようにしたらどうかということですよ。

【委員】 折衷案も分かりづらいですよ。

【委員】 囲むわけですよ。

【委員】 市民から下にさがっている矢印はいらわないと思う。下にあるから。

【議長】 じゃあこれをなくしたうえで、一本化するというイメージですね。

【委員】 大きい意味でいえばこれも市民ですよ。

【議長】 この市民は、市民一人ひとりです。11ページからの説明の市民の定義を踏まえてですから。

【委員】 いわゆる市民だけど、団体と一般一人ひとりというのは意味が違う。あくまでも市民は市民。

【議長】 ここで言っているのは高砂市民一人ひとりということです。自分はこういう活動をしていて、それを伝えていきたいというのも個人になりますし、それがどこかに所属していれば参画になるということです。

【委員】 1番の市民というのが、その市民一人ひとりということですよね。これが個人としての役割を果たし、個人・団体・学校・企業といけるわけだから、図としてはあくまでも市民は参画するということで、どういう方法で連携・協働するのかといえば、個人として市から支援をいただいたり、協働いただいたり。図としてはそのほうが分かりやすい。4項目に分けてありますし。

【議長】 大きく市民一人ひとりの潤いのある生活をというところで、そこに線をいれなければ市民の部分小さくして、置くのは1つの手ですよ。これは市民の位置づけですよ。1つは団体に参加して活動する人もいれば、個で活動する人もいる、その二面性と、何のために文化振興をやるのかというと、これによって市民が文化水準が上がると、これの表現がよくないので生活に潤いを与えるという表現になっていますが、これを上に持ってきた。

【委員】 アートタウンプロジェクトでは、芸術家個人が高砂に住んで、工房などを開いて、そこにいろんな人が集まってきて、1つの価値を生み出すのであって、初めに団体ありきというわけではないですよ。図はできるだけ分かりやすいほうがいい。

【議長】 他に何か意見ありますか？個人の参加をみなさん否定していないというの

は、今回の議論でお分かりいただいたと思います。事務局で何か修正点ありますか？この点は私のほうで引き取らせていただいて、市民も市とかかわりを持てる可能性を残すということと、もう1つは一番上の市民一人ひとりが文化的水準、満足度を高めていくというこの市民という位置づけを強調したいので、そこを少し個人という言葉は使いにくいので、どれか矢印を工夫して、例えば市民がここにもう少し参画できるようなイメージにしておいて、この線をなくした上で、全体を行政が支えていくという図を考えてみます。

【委員】 このページはどうしても図を入れなければならないのですか。文章ではすっきり見えると思うのですが。

【事務局】 初めは、市民、団体、市、と条例に定めてあり、あえて学校や企業という言葉を入れて考えたときに、ややこしくなるかなと思って図にしました。最初は5つを輪にするようなイメージにしていました。市、市民、企業もどこにもかかわって文化振興していくというイメージで作らせていただいたと思います。その説明をするために変わってきたので、特に図を絶対入れないといけないというわけではない。

【委員】 図というのは文章が複雑で非常に理解しにくいから、図を書いて分かりやすくしようとするのが、逆に文章を読んだら分かるのに、図を書いたがために複雑になったので図を入れる必要があるのかなと。

【委員】 議長が先ほどのイメージでまとめてくださるならあったらいいと思う。どうしても図にまとめるのが無理であれば構いませんが。

【委員】 図が邪魔ということではなく、かえって分かりにくいかなということです。

【議長】 これは失くすかどうか含めてあずからせてください。また報告します。それから第6章ですが、前回ご意見をいただいたものを修正しています。多くは字句の修正ですが、基本施策5が少し長めに書いてあります。

【事務局】 第6章に関しては、前回「他市との交流」のところを大きく変えています。「国内外との交流」というところです。外国の部分が主になっていまして、もっと日本のところを中心にするべきということで、基本施策4【施策の方向2】のところが大きく変わっています。外国の部分を下げて、日本国内や県内を前に持ってきています。それは前回見ていただいています。それに伴い、外国のところをあまりにたくさんとっていたので、まとめました。また「核となるイベント」についてご意見をいただいていたので、そこは例を示したほ

うがいいということで、1回目は万灯祭をあげていましたが、委員のご意見の中で謡曲「高砂」をシンボルにするのだから、観月能を入れるのはどうかという意見が出ておりました、そこを修正しています。あとは語句の訂正です。基本施策5の文章が変更になっていますので、その辺りを議論していただければと思います。

【議長】 まず、国際交流のところで、外国だけでなく国内もというのが前回出た意見で、それを含めて整理させていただいたということで、基本施策4に書かれています。

【委員】 19ページの基本施策の5が変わっているのですが。3行目の『外部からも「高砂を愛する」多くの人が文化を持ち寄り、』のところが、どうも意味が分からない。「多くの人が集い、地域の活性化に寄与する」とかのほうがいいのではないか。「文化を持ち寄り」というのはどういうことかと思うのですが。

【委員】 前半の「高砂が文化を大切にし、ふるさとを愛する人が集うまち」であるということは、昔からそうだが、あまり知られていないから「発信し」が良いと思いました。また、その後ろは、「発信することで」、あるいは「発信し続けることで外部からも高砂に興味を持つ多くの人が集まり」のほうが良いと思いました。そして、「文化を持ち寄り」というのは少し違うように思いました。どこかで文化がぶつかって、よくなるというのはあるのですが、それは後の話で、まずは人が高砂に来ていただくことで、地域が活性化するというのが、意味合いとしては大事だと思うので、そういった文章で良いと思います。「発信し」か「発信することで」か、あるいは「発信し続けることで」、外部からも高砂に興味を持つ多くの人が集まり、というのはどうでしょうか。

【議長】 いかがでしょうか。

【委員】 今の意見で私はいいと思うのですが、今の現状については、アートタウンプロジェクトで、神戸や明石の人が共感されて、工房をこちらに構えられているようなことをやっている現実がある。委員はそのことをよく知っているので、まさしく高砂を私たちが愛していて、その人たちがその人たちの文化を持ち寄っている状況がある。これは委員の提案ではないかもしれないが、それを分からない人からすると文章は分かりにくいかもしれない。文章はそれでいいのだが、ここにいる人たちにはそういう現実があるということをお伝えしておきたい。

【議長】 実際文化を持ち寄っているということですね。それは背後にあるのだが、

文章としては分かりにくいので、委員がおっしゃるように多くの人たちが集まりということでしたらどうかということですね。

【委員】 高砂町が今、景観条例に指定されていることもあり、勝手に看板を立ててはいけない。アーティストの方が壁面に自分で描きたいということがあり、それは周りの景観との調和がないとひっかかるということで、どうしようかということで、しかしやってみないと分からないということで、地元の自治会長など関係者と話をし、そして描いてみるといいものができたなあということがあった。すなわち若者が来てぶつかっているわけです。そういう現実が堀川周辺で今起こっています。

【議長】 委員もわかったうえで、文章として「文化を持ち寄り」というのは分かりにくいと。内容は同じだと思います。委員がおっしゃったことが背後にあるということ踏まえつつ、こういう表現になったということです。

【委員】 景観条例とぶつかっているということを言われていましたけど、条例にぶつかってまでさせるべきかと私は思いますが。

【事務局】 高砂地区は景観形成地域に指定されています。

【議長】 景観条例の考え方は区域指定をすることで、その区域でどういう景観をするかはその区域で決めなさいということで、ぶつかってはいない。その区域で議論しなければいけない。勝手にできないから、まさに文化のぶつかりあいであり、その中でみんながこの方法でいきましょうと。それはすごい大事なことで、ぶつかっているわけではなく、その景観条例に基づいてやった結果、ある種合意が得られましたということです。

【委員】 自治会長は喜んでおられます。

【委員】 わかりました。

【議長】 委員からありました「発信し続けて」か「発信することにより」ということですが、どうですか？続けるほうがいいですかね。

【委員】 「発信し続けることで」とか「発信することで」とかが良いと思います。

【議長】 「続ける」を入れるかどうかですね。「続ける」のほうがいいかもしれないですね。「発信し続ける」とさせていただきますでしょうか。あと何かお気づき

の点ありますか。

【委員】 核となるイベントですが、ブライダルは載せなくていいのですか？「ブライダルシティ高砂」という歌までできているのに。

【事務局】 これは実際に今やっていることで施策例をあげておりますので、ブライダルでは今やっていないので、ここでは省いております。

【委員】 中筋の消防署の陸橋のところに、ブライダル高砂と書いてあるし、高砂駅降りたところにもありますが。

【事務局】 「ブライダル都市高砂宣言」はして、それは続けていますが、事業としてや、施策として今ブライダルという名前のイベントはないです。

【議長】 イベントがないのに、ここには書けないということですね。

【委員】 これに係る合コンみたいなことはないのですかね。

【議長】 最近では街コンとか言いますね。そこまでは核にはなっていないでしょうね。核というのはある程度歴史があって、市民全体から認められるということが必要だと思うので、街コンはまだまだ知名度が低いのですかね。よろしいですか。

【委員】 はい。

【委員】 基本施策4の【施策の方向2】で、題名を「国内外の文化活動との交流」を「との」がおかしいのではないかとということで、「国内外との文化交流」に直して頂いているのですが、ちょうど下の1行目が「国内外の文化や文化活動との交流を通して」となっていて少しおかしいように思います。

【議長】 そしたら「国内外との交流を通して」でいいですね。

【委員】 題名の下が「文化活動との交流」となっていて「との交流」というのが少し違うように思いますし、題名と同じ形をとるのでしたら「国内外との文化や文化活動の交流を通して」と変える方が良いと思います。

【議長】 それで意味は通じると思いますので、「国内外との交流」でいいと思いま

すのでそうしましょう。次の「多様」というのは、「多彩」ではなく、いろいろな文化という意味なので「多様」でいいと思います。

【委員】 この場合はいいですね。

【議長】 あとはよろしいでしょうか。施策例などは確認等はしていただかなければならないですが、（再掲）など書き間違えとかあれば事務局と私のほうで調整しますが、何か文意や意味を変えるところはここで議論をしたいと思います。細かいところはお任せいただきたい。資料編を含めて何かありますか？

【委員】 20ページの【施策の方向3】の〈施策例〉として、「高砂町町名由来看板の設置」ということがあります。万灯祭までに高砂町29町すべて付け替えるということで進んでいます。それ以外に今年初めに教育委員会が高砂市の指定文化財10か所に石柱を立てましたし、まちづくりでは市の史跡に10本か11本立てる予定です。施策例としては、何百万のお金を使って作っているの、できれば町名看板以外に入れていただけたらと思うのですが。

【事務局】 その部分ですが、基本施策2の【施策の方向2】の〈施策例〉「3竜山石を利用した文化財の標柱の設置」に載せてあります。

【議長】 それでしたらこちらにも入れて（再掲）にしたらと思います。標柱というのは地名が分かるものですよね？

【委員】 地名のものは看板です。板に墨で書いたような形の看板が29町分。江戸時代のまま。それとほかには竜山石の石柱が20本です。標柱は、史跡や高砂市の指定文化財にそれぞれ10か所ずつ建っているものや、これから建つということで、どこかに入っていればいいです。

【議長】 地名ではないので、ここでは違います。15ページに入っているということです。他に何かありますか。だいたいよろしいでしょうか。改めて事務局のほうに見直しをお願いします。抜けがないか見てください。ただ文意が変わるということはないです。あとは図です。先ほど説明したように市民が全体にかかわるものを明確にし、市との関係を全体に係るようにするという形に書き換えさせていただきます。どうしても書けないときは外すことも選択肢に入れます。これは私と事務局でお任せください。これはお願いでございます。字句の修正等につきましては申し訳ありませんがこちらにお任せいただくということでよろしくをお願いします。素案のほうはこれで終わったのですが、その他のところで、今後の予定等がございますので、事務局から説明をお願いします。



#### 4. その他

##### (1) パブリックコメントについて

【事務局】 パブリックコメントについてですが、資料2のパブリックコメントの意見の概要とそれに対する考え方をご覧ください。前回の審議会で見ただき、その後訂正がありました。その後もう一度見ていただきましたが、意見はなかったなので、このとおりホームページで公表させていただきます。

【議長】 よろしいでしょうか。それでは了解いただきました。

##### (2) 今後のスケジュールについて

【事務局】 次に今後の予定ですが、資料3をご覧ください。本日の審議会の意見をもとに再度答申していただく内容に変更し、答申までに委員の皆様にもう一度確認のために送りますので、最終確認をお願いします。確認していただいてから市長と日程調整をし、答申をお願いいたします。

【議長】 答申のやり方ですが、本来ならば今日を考えていたのですが、手直しがあるので、できません。答申書の提出の仕方ですが、委員全員、会長だけ、会長と副会長だけという3つのパターンがあるのですが、議会が始まるということで、市長のおられる時間帯にみなさんが集まってというのはかなり困難かなというのが事務局の考え方です。皆様のご了解いただけるのであれば、私が皆様を代表させていただいて、市長に直接お渡しするというのを考えていますが、いかがでしょうか。そういう形で進めさせていただきます。

【事務局】 日程調整については後日ということをお願いします。答申をいただきましたら、市のほうで基本方針に基づきまして、来年度の事業を含めて文化振興に対する実施計画を作成していきます。委員の皆様には第7回の審議会を来年の1月頃に予定しています。そこで実施計画の内容等の報告を行わせていただきます。また、1月になりますので、日程は後日連絡させていただきます。その間も実施計画も含め、皆様にご意見を頂戴することもあると思いますが、御協力のほどよろしくお願いします。

【議長】 何かこの機会にお伝えしたいことがあればお願いします。

【委員】 基本方針に基づいて謡曲「高砂」をシンボルとしてということについては、商工会議所では月に4回、謡曲「高砂」の勉強会を開催しています。これは秋以降もやります。今は2日間で1回に2つの講座をやっていました。10月からは月に4回、昼と夜の部でやっていく。これはいろんな媒体を通して、市民にPRして参加していただくことを考えています。万灯祭では、初日の4時から5時半くらいで、万灯祭2012の開会を告げる謡曲高砂発表会ということで、今のところ目標としては1万人を1年間くらいで謡えるようにしたい。その中で参加していただいている方、高砂高校、高砂南高校、企業、高砂市役所、観光協会、商工会議所女性部など約100名位で、謡曲「高砂」の発表会をコミュニティセンター横の特設会場で行います。これをスタートとして、より多くのかたに講座を受講していただきたい。これは市の方をお願いするのですが、来年の交歓会に見るだけでなしに、参加者全員で合唱するというのも案内していただきたい。謡えないとはずかしいというくらいにしていっていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【議長】 ほかよろしいでしょうか。本日はどうもありがとうございました。

## 5. 閉 会

【司会】 これにて散会いたします。ありがとうございました。